

水稻新品種「げんきまる」の復元田等における栽培法（第86号追補）
－土壤タイプ、土壤窒素無機化量別の収量性と耐倒伏性－

古川農業試験場

1 取り上げた理由

水稻品種「げんきまる（東北189号）」は、平成21年度に耐倒伏性及び収量性に優れていることから、復元田等における多収品種として本県の奨励品種に採用され（普及に移す技術第85号）、栽培方法（栽植密度）について普及に移す技術第86号に示した。

今回、復元田等における土壤タイプ別、土壤窒素無機化量別の収量性と耐倒伏性についての目安が得られたので同号の追補とする。

2 参考資料

- 1) 復元田における無施肥栽培は「まなむすめ」と比較し、収量が高く倒伏程度は低い（なびき倒伏が主体）（図1）。
- 2) 土壤タイプや土壤窒素無機化量により、収量が異なる（図1～3）。
 - a 灰色低地土は黒泥土、泥炭土より収量は低いが、粗玄米重650kg/10a程度見込まれる。
 - b 黒泥土は灰色低地土より収量は高く、泥炭土より低い粗玄米重700kg/10a程度見込まれる。
 - c 泥炭土は灰色低地土、黒泥土より収量は高く粗玄米重850kg/10a程度見込まれる。
- 3) 復元2年目以降は、泥炭土では基肥のみ、灰色低地土では基肥＋追肥（幼穂形成期）により高収量を得ることができる（図4）

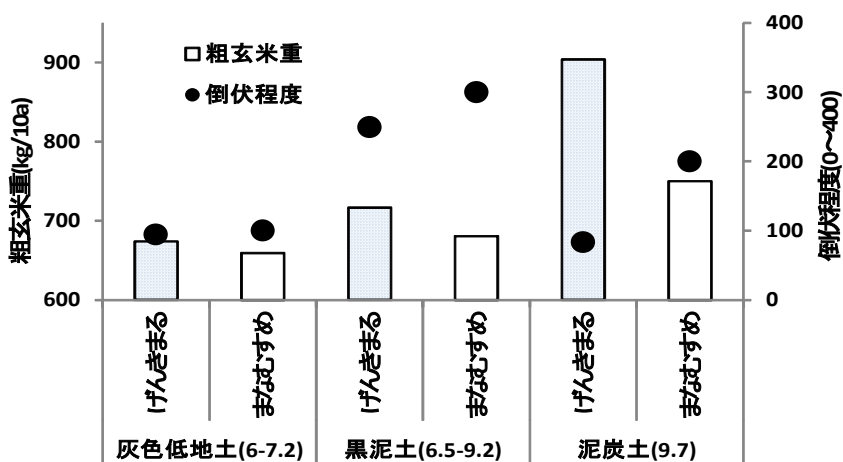


図1 復元1年目における土壤タイプ別の粗玄米重と倒伏程度（平成21～23年：現地）

※1) 各土壤タイプの（ ）内は土壤窒素無機化量（4週後，mg/100g）

2) 倒伏程度：0（無倒伏）～400（完全倒伏）の面積比

3) 倒伏状況はなびき倒伏のみ，黒泥土の倒伏程度においては，平成23年9月20日～22日の台風第15号によるもの

3 利活用の留意点

- 1) 「げんきまる（東北189号）」の特性については、普及に移す技術第85号参照のこと。
- 2) 栽植密度については、普及に移す技術第86号参照のこと。

（問い合わせ先：古川農業試験場水田利用部 電話0229-26-5106）

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名及び研究期間

・新規需要米栽培・加工適正試験 平成21～23年

2) 参考データ

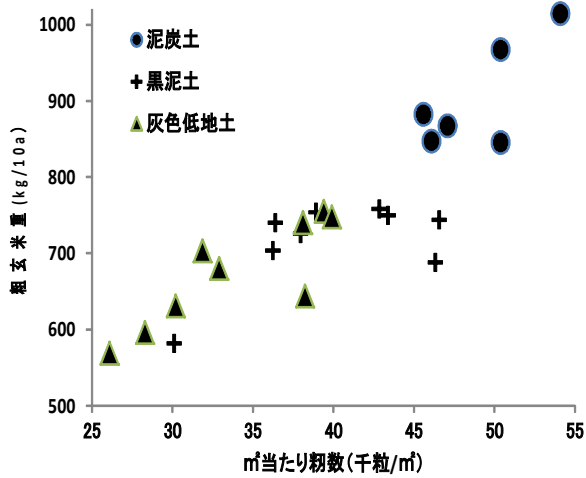


図2 復元1年目の m^2 当たり粒数と粗玄米重
(平成21～23年：現地)

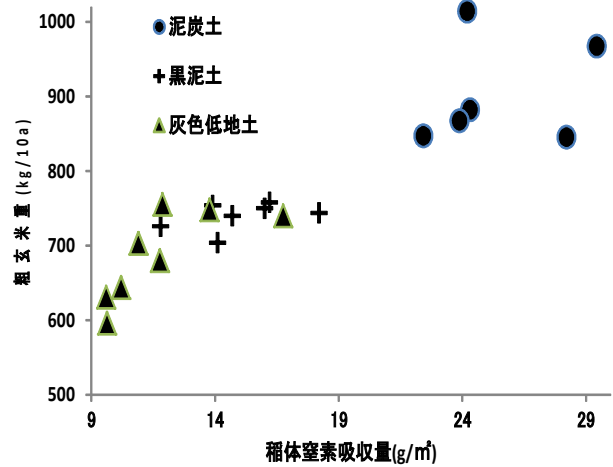


図3 復元1年目の稲体窒素吸収量と粗玄米重
(平成21～23年：現地)

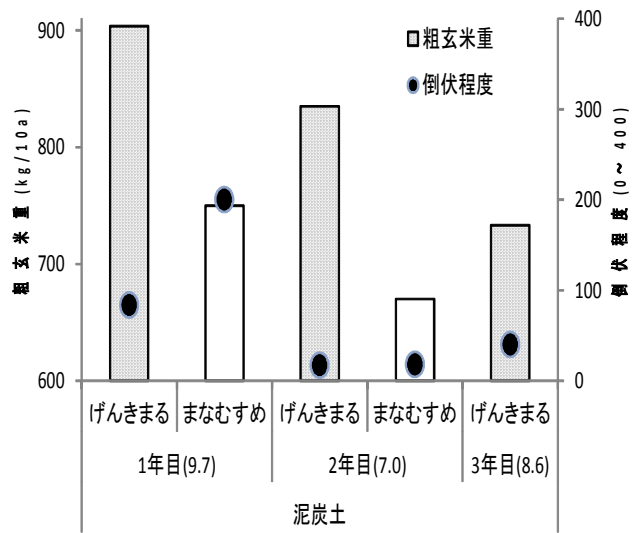
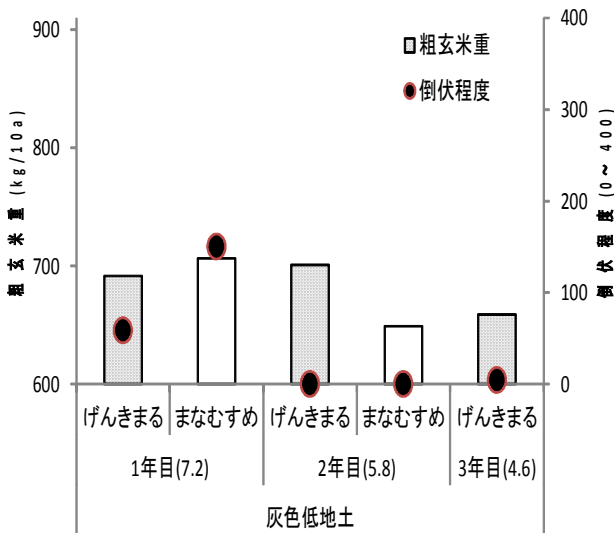


図4 復元田の同一ほ場における3年間の精玄米重と倒伏程度 (平成21～23年：現地)

※1) 左：灰色低地土(2-3年目)基肥(窒素4kg/10a) + 追肥(幼穂形成期：窒素2kg/10a)，
右：泥炭土(2-3年目)基肥(窒素4kg/10a)のみ

2) 各年数の()内は土壤窒素無機化量(4週後, mg/100g)

3) 倒伏程度：0(無倒伏)～400(完全倒伏)の面積比

3) 発表論文等、関連する普及に移す技術等

- ・水稻奨励品種「東北189号」(普及技術 第85号)
- ・水稻新品種「げんきまる(東北189号)」の復元田等における栽培法(栽植密度)(参考資料第86号)

